



日々小さな喜びを

学務担当 磯川桂太郎

強い労働、格差、知識偏重など、繰り返し取りざたされる問題は、何事も程度やバランスが重要なことを示しています。けれども、学問やスポーツでは、相当な努力、苦勞あるいは時に犠牲を払ってこそ成果が期待できるわけですし、成果への称賛はそれに至る努力や苦勞に向けられているとも言えます。また、偏重はよろしくないとされつつも、さながら国試コンペといった現在の様相は未だ留まるところを知りません。とかく世の中は住みにくくストレスフルなのです。さりとして「越すことができないならば、束の間でも住みよくせねばならない」とはかの文豪が記したところです。

本学は「自主創造」を掲げていますが、能動的な思索はゆとりの中で生まれ、創造的な動機は知的好奇心から生じるものです。しかし、これらは制度や過密偏重な環境には馴染みません。制度や環境という外的呪縛から越すことができないならば、内的な力で住みよくする他はありません。内的な力つまり「心持ち」によって寸暇においても知的好奇心を少しばかり発揚できれば「小さな喜び」を都度手にすることができます。これは脳内物質の研究結果をもとに脳科学が語っていることです。とくに学生諸君、自分の意志で、適度なレベルで、そこそこ小まめに、こうした工夫をストレスフルな生活に織り込んでみてください。

(教授 解剖学第 講座)

新 教 授 紹 介



説明力と理解力

数理情報科学分野 宮崎 洋一

コンピュータの性能向上に伴って、人工知能は車の自動運転など多くの分野での活躍が期待されています。しかし、人工知能の研究は克服すべき課題も抱えているようです。そのうち、人間の学修方法とも関連が深い人工知能の弱点を2つ挙げてみます。

一つは、答を得られても、なぜその答が導き出せたかの理由を人間側がわかるような形で提示できないことです。2013年は、コンピュータ将棋にとっては画期的な年でした。人間のプロ棋士との団体戦で勝利を収めたからです。その数ヶ月後の日本数学会において企画された招待講演「プロ棋士に勝ったコンピュータ将棋」によれば、コンピュータ将棋を著しく強くした要因は、一つの局面の優劣を判断する評価関数の作成を、人間の手作業によるものからコンピュータによる自動生成に変更したことです。その代償として、例えば王様の安全度に関する数値を高めたら強くなった、というような説明が困難になってしまいました。可能な指し手すべてを探索するしらみつぶしの方法で強くなったとしか説明のしようがない、と講演者が嘆いていたのが印象的でした。

もう一つは、正解を答えられても、人工知能は言葉の意味を全く理解していないということです。人工知能が答を導き出す過程は、いわゆるパターンの当てはめです。について質問されたら、膨大な情報を瞬時に探索して、と がセットで出てくる頻度が多いので、と答えるというのが人工知能のやり方です。したがって、や の意味を人間が理解しているようには理解していません。先頃、「ロボットは東大に入れるか」のプロジェクトが東大合格を断念したというニュースが流れましたが、その理由の一つはこの弱点にあるようです。

大学教育においては、人工知能にとって獲得するのが難しい説明力と理解力を高めるような教育が重要と考えています。料理では、本当の甘さを出すために、最後に少量の塩を隠し味として加えると言います。数理情報科学分野は、歯学部の教育では小さな一角を占めるにすぎませんが、真の教育効果が上がるようにいい塩加減ができればと思っています。

【略歴】
昭和56年東京大学理学部卒業。昭和59年東京大学大学院理学系研究科修士課程修了。本学助手、講師、准教授を経て、平成28年10月本学教授。博士（数理学）。58歳。

昭和61年立教大学理学部卒業。平成3年立教大学大学院理学研究科博士課程後期課程修了。テキサス大学ヘルスサイエンスセンター歯学部小児歯科研究員、九州大学歯学部予防歯科学講座助手、講師、九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座助教授を経て、平成21年本学准教授、平成28年10月本学教授。理学博士。53歳。



Dum aurora fulget, adulescentes, flores colligite.

基礎自然科学分野 中野 善夫

昨年10月から基礎自然科学分野（化学）の教授として仕事をすることになりました。今のところ、それで仕事の内容は特に変わっていません。

実際のところ、10年前にはここでこういう立場で仕事をすることは思ってもいませんでした。大学生や大学院生だった頃には、まさか歯学部でこんなに長い期間を過ごすとは想像をしたこともなかったもので、あまり過去を振り返らないように心掛けています。学生諸君は将来は予想もしないことが起こると思っておいた方がいいでしょう（このページは誰に向けて書けばいいのかよく判っていませんが、とりあえず若い人たちにに向けて書くことにしましょう）。

大学は理学部の化学科を卒業して、大学院は理学研究科化学専攻でした。日大歯学部で化学を教えているのだから当然だろうと思われるでしょうが、7年前に着任する前は他大学の歯学部の予防歯科にいたので、その後は当然な道を辿ってきたわけでもありません。私立大学で（口腔）衛生学講座は国立大学では予防歯科学講座に相当し、その多くは臨床講座です。私は歯科医師ではないので、もちろん臨床は関係なく、口腔内細菌の研究をしたり、齲蝕細菌や微生物の遺伝子の話などの講義をして、照度や騒音の実習をしたりしていました。熱力学なんて遙か彼方の学生時代の思い出の一つでしかありませんでした。それがこんなことになるうとは。

若い頃に学んだことが思いもしないところで役に立つこともあります。そのときはまったく予想もしていないところで。学びたくないことまで学ぶのが学校です。大学は専門領域の周辺から体系的に勉強をするところです。この体系的というのが独学では難しい。今日、明日のことだけを考えるのではなく、予想できない未来のために学ぶべきだと思います。そうすると何かいいことがあるかも知れない。Ipsa scientia potestas est ということでしょう。

【略歴】
昭和61年立教大学理学部卒業。平成3年立教大学大学院理学研究科博士課程後期課程修了。テキサス大学ヘルスサイエンスセンター歯学部小児歯科研究員、九州大学歯学部予防歯科学講座助手、講師、九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座助教授を経て、平成21年本学准教授、平成28年10月本学教授。理学博士。53歳。

昭和56年東京大学理学部卒業。昭和59年東京大学大学院理学系研究科修士課程修了。本学助手、講師、准教授を経て、平成28年10月本学教授。博士（数理学）。58歳。

日本大学の研究力

研究担当 清水 典佳



2016年8月31日、ロイターより「アジアで最もイノベーティブな大学ランキングTOP75」がプレスリリースされました。これは大学の所有する特許および学術論文の引用情報などから、科学の進歩、新技術の発明、およびグローバル経済

の推進に最も貢献した教育機関を明らかにする試みです。アジアで最もイノベーティブな大学に選ばれたのは、韓国科学技術学院であり、2位以降は東京大学、ソウル大学校、大阪大学、浦項工科大学校(韓国)・・・と続き、日本大学は70位にランクインされておりました。韓国、日本が20校で上位を独占する結果がありますが、中国が22校、オーストラリアが6校ランクインされております。韓国、日本の研究力の強さを感じますが、今後経済力豊かな中国の研究力が発揮されるかもしれません。

一方、2016年10月には文部科学省研究振興局から「平成28年度科学研究費助成事業の配分について」という報告がなされました。平成28年度において、補助金採択数で、1位東京大学、2位京都大学、大阪大学と続き、日本大学は全国で22位、私立大学の中では、慶応大学、早稲田大学に続き3位と報告されております。しかし、補助金配分額はその後の順位の大学より少なくなっています。その理由は基盤(C)の採択が前後の大学に比べかなり多いにもかかわらず、基盤(B)、(A)の大型研究費の採択が少ないことにあります。

研究分野別新規採択配分状況表では、情報学4.2%、環境学2.5%、・・・数物系科学7.9%、生物学5.5%、農学6.3%、医歯薬学24.0%と医歯薬学は全15分野で最大の24%の配分率で、155億5千4百万円もの額に達しており、超高齢社会を迎えた日本の医療費削減に寄与する医歯薬学の研究発展に国が大きな期待を持っていることが伺えます。

近年、預金の利子が低下し本学部の研究費も徐々に削減傾向にあるため、外部研究費の獲得が必須となっております。日本大学の研究力を生かし、学部間の協力のもと、本学も大型研究費の獲得を目指す必要があると考えられます。(教授 歯科矯正学講座)

平成28年度奨学金について

学生担当 鈴木 直人



歯学部では、学生の修学を経済的な側面から支援する事を目的として、日本大学、歯学部独自及び学外の奨学金財団による奨学金制度を設けています。奨学金制度には「給付型奨学金」と「貸与型奨学金」の2種類があります。

給付型奨学金には、課外活動において顕著な成果を収め、学部に貢献した学部生(2~6年生)及び海外で開催される学会で研究発表をする大学院生を対象とした「歯学部佐藤奨学金第1種・第2種奨学生(学部:年額20万円5名、年額10万円26名、歯学部佐藤奨学金第3種奨学生(大学院:年額50万円以内8名))、課外活動において顕著な成果を収めた学生及び学部学生への学習指導に貢献した大学院生が対象の「歯学部同窓会奨学金(学部:年額10万円4名、大学院:年額5万円4名))、大学院4年生が対象の「日本大学古田奨学金(年額20万円1名))、「日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金(年額20万円1名)」があります。また、家計及び学業成績を推薦基準に学部学生を対象にした「日本大学事業部奨学金(年額24万円2名)」があります。これら給付型奨学金は、人物、学業成績が優秀な者から選考の上、日本大学、日本大学歯学部あるいは日本大学歯学部同窓会から給付されます。その他学外の給付型奨学金として「森田奨学育英会奨学金」があり、学部6年生と大学院4年生を対象に公募・選考の上、各1名に給付されます。

貸与型奨学金にも種類があり、授業料相当額以内を貸与する「日本大学歯学部佐藤奨学金」及び「日本大学歯学部後援会奨学金」は、人物、成績が優れ、経済的理由等で学業継続が困難な学生に対して選考の上、日本大学歯学部が貸与します。また、「日本学生支援機構奨学金」は、「第一種(無利子貸与、月額5万4千円、6万4千円)」と「第二種(有利子貸与、月額3万円、5万円、8万円、10万円、12万円)」があり、学部と大学院在籍者を対象に貸与されます。この奨学金は多くの学生に利用され、第一種、第二種合わせて学部58名、大学院43名に貸与されています。各種奨学金の取り扱いには学生課が窓口となっています。(教授 生化学講座)

平成29年度 臨床研修歯科医師選考試験について

卒後教育担当 石上 友彦



本学部付属歯科病院臨床研修歯科医の選考試験は、昨年7月30日に実施されました。採用定員140名のところ、学外からの志願者を含め、総数206名の受験者でした。本学部の選考試験は、学内外を問わず向上心のある優秀な人材の選考を目的としており、「書類審査」、「面接」及び「筆記試験」で構成されております。本学部生に対しては、「面接」が免除されており、在学中の学生生活における「生活態度」がそれに該当する形で評価され、「生活態度」は「授業態度」をはじめ「出欠席状況」、「部活動」、「学内外における学校行事への参加状況」、「表彰歴」などが総合的に判断されます。また、「書類審査」では5年次までの「学業成績」などを評価します。一方、他大学受験者に対しては、本学部生達と切磋琢磨して研修することを踏まえ、周囲に配慮しながら自己主張のできる人材を選考することを目的として、「面接」の方法をグループディスカッションに変更しました。平成18年度より歯科医師臨床研修が義務付けられたことから、歯学部生にとって「選考試験」は一種の「就職試験」と考えております。

本学部での研修を希望する学生は、低学年より有意義で充実した学生生活を送り、「筆記試験」や「学業成績」に対応するうえで、より一層日々の自主的な学習に取り組んでいただきたいと思います。

本歯科病院にマッチングした方の出身は以下の通りです。

プログラム1（募集定員105名）

本学部 94名（既卒者25名）

他大学 11名

プログラム2（募集定員35名）

本学部 35名（既卒者7名）

他大学 0名

本歯科病院にマッチングした方はもちろんのこと、本学部の6年生全員が歯科医師国家試験に合格し、平成29年度の歯科医師臨床研修を開始できることを祈念致しております。

（教授 歯科補綴学第 講座）

解剖体追悼法要に参列して

一瀬 光史

昨年10月29日（土）に築地本願寺で解剖体追悼法要が行われました。私達第2学年が学んでいる人体解剖学実習もこの日にはちょうどその半分が経過した節目の時期でした。この追悼法要に参列された多くの御遺族の方々の様子を拝見することにより、残る実習過程もよりいっそう気を引き締めて取りかからねばならないと強く思いました。この場を借りて、御献体くださった方々ならびに御遺族の方々にもう一度感謝を申し上げたいと思います。

解剖学実習は普段では絶対に直接見たり触れたりすることの出来ない人体の構造についての学習を体験する事ができるものであります。それだけに最初はどのように作業し観察していけば良いのか分からず、多くの学生がとまどいがちに実習を進めていましたが、開始から2ヶ月が経過したこの時期には段々と慣れてきて戸惑うことが少なくなってきました。そうなりますと学習したことについて徐々に多様な見方ができるようになってくるもので、解剖実習で体験したことを自分の知識や経験とすりあわせることにより自分のものとなっていく実感が伴うようになってきました。そういった体験はやはり教科書を見て学ぶだけではできないことであり、追悼法要を終えた今その貴重な体験の場を与えて下さった沢山の方々に対して改めて感謝を忘れてはいけないと痛感いたしました。

この解剖実習を通じて、良い医療人になるために大切なことは目の前の人や物事を大事にしていくことだということも学びました。このことはこの先も目の前の患者さん一人一人を大事にする気持ちを持ち続けることに繋がるのではないかと思います。そのためにも、私達は御献体下さった故人およびこの追悼法要に参列された多くの方々、さらに普段からお世話になっている方々への感謝を忘れぬようにしながらこれからも精進していきたいと思っております。

（第2学年）



平成28年度 近畿地方発明表彰 京都発明協会会長賞 受賞

平成28年度近畿地方発明表彰が昨年11月28日に神戸ポートピアホテルで盛大に行われ、本学歯学部新井嘉則特任教授が京都発明協会会長賞を受賞しました。この賞は各地域において優秀な発明等を行い社会に貢献した方々の功績を称え顕彰されるものです。



今回は日本大学が所有する“特許第5757660号X線CT撮影装置”の発明に対して行われました。この発明はモリタ製作所(京都)に本学より技術移転され、最新の歯科用CT Veraview3Dfおよびx800に搭載され、検査時の被曝線量の低減と画質の向上に貢献しています。歯科用CTの発明に関する受賞は今回で3度目となり、本学の独走的な発明が歯科医学会のみならず、産業界からも注目を集めていることが示されました。

参考 http://www.nubic.jp/07eventseminar/2016/event_top.html

父母懇談会

昨年10月8日(土)に歯学部父母懇談会が開催されました。昨年度に引き続き、桜齒祭・駿技祭・翔衛祭・NU祭・御茶ノ水アートピクニックと同日に開催され、多くの父母が参加されました。全学年で学年主任・クラス担任ほか多数の先生方により、個人面談が行われ、子女の学校生活や出席状況等の話がされました。終了後は、銀座アスターにて全学年合同の懇親会が開催されました。

進学相談会

昨年10月8日(土)に学部祭との共催で歯学部及び附属歯科技工専門学校・衛生専門学校合同の進学相談会が開催されました。当日は、適性試験・入試科目・小論文等、入試に関する質問が多くみられました。平成28年度進学相談会の総来場者数は745名でした。

平成28年度第2回歯学部公開講座 口腔と全身の健康シリーズ(41回)

飯沼 利光

昨年11月5日(土)に、第41回日本大学歯学部公開講座が開催されました。これは、日本大学歯学部が社会貢献活動の一環として、本学歯科病院の患者さんや、地域住民の方々を対象として、年2回、春と秋に開催しているものです。そのメインテーマは「口腔保健と全身の健康」ですが、これに関する様々な内容を本学の教員が、専門的な立場からわかり易く話をしているため、毎回多くの来場者があり、今回も100名以上の来場者から上々の評価を得ることが出来ました。今回は、私と歯科衛生士の坂井雅子さんで、「お口の健康を保って、健康寿命を延ばそう! - プロが教える入れ歯との正しい付き合い方 - 」と題し、2時間ほどのお話をさせていただきました。日本は現在、超高齢社会となり国民の多くが80歳を超えて長生きすることが可能となりました。しかし、人生を十分謳歌するためには何よりも健康であることが重要で、この実現に口腔の果たす役割の大きさが科学的にも数多く証明されています。当日は、これに関する最新の情報と、誰もが最も身近と感じるお口のケア、入れ歯のケアについてわかりやすく解説しました。(専任講師 歯科補綴学第 講座)



平成28年度 生涯学習講演会のお知らせ

生涯学習シリーズ(21)

テーマ: 摂食嚥下障害・要介護高齢者への
口腔ケアと摂食・嚥下リハビリテーション

講師: 阿部仁子助教(摂食機能療法学講座)

日時: 平成29年2月25日(土) 14:00 ~ 16:00

場所: 歯学部第3講堂(4号館3階)

皆様のご来聴をお待ちしております。
詳細は歯学部ホームページに掲載

お問い合わせは庶務課(03-3219-8001)まで。

平成28年度第1回医療安全研修会・ 院内感染予防研修会・ 個人情報保護研修会について

医療安全管理委員会 副委員長 米原 啓之

平成28年10月18日に平成28年度第1回医療安全研修会、院内感染予防研修会および個人情報保護研修会が合同研修会として開催され、472名が出席しました。

医療安全研修会では『患者急変時等緊急対応について』として、病院内において緊急処置が必要な症例等が発生した場合の対応について講習が行われました。本院では診療中に患者さんが急変した場合については、既にその対応が決まっておりそれに基づき対処されています。今回、今までの診療中患者急変時対応に加え、患者を含めすべての病院関係者に対する待合室や病院内の廊下や階段など診療室以外の場所を含め受傷事故や緊急処置の必要が生じたときの対応が新たに決められました。このことを受け、いわゆる「コードブルー」コールが本院でも行われることについて、その実際の運用等について説明がありました。

院内感染予防研修会では『ICT活動報告』として Infection Control Team (以下ICT) の活動報告が行われました。活動を開始してから現在までのICT活動における指摘事項として認められた本院の感染予防対策についての必要な改善点、写真等を用いた具体的な指摘事項例の報告とそれに対する改善策についての説明が行われました。

個人情報保護研修会では『歯科病院における個人情報管理の変更点について』として、現在求められている個人情報等の保護に対する観点から、診療端末におけるパスワードの変更を最長でも2ヶ月に1度は行うようにすることや離席時の画面終了等の必要性について説明が行われました。
(教授 臨床医学講座)



随 想

日本大学歯学部に通って45年

祇園白 信仁



早いもので、日本大学歯学部に通って45年が経ちました。国鉄(現在のJR)の最低運賃が30円の時代に、改札口の構造等一部は変わりましたが、全体的な見た目は基本的に変わっていない御茶ノ水駅聖橋口改札を出て、現在の3号館に当たる進学校舎に通い始めました。

通い始めたときには、地下鉄千代田線は開通していなかったように記憶しております。

45年前聖橋口改札を出て右手には、幅が1mと少しの立ち食いのそば店がありましたが、大きくリニューアルして「そば新」との店名で現在も営業しています。改札口前の茗溪通りを渡ると古い日本出版販売株式会社のビルがあり、正面に降りるとピアホールに入る階段があったように記憶しています。井上眼科病院を含めたこの一帯は、35年前に22階の高層棟を含む3棟のビル群へと変わっており、昔の面影は全くなくなりました。唯一残っているのは、高層棟の一部に日本出版販売(株)が入っており、病院棟に井上眼科病院があることです。

改札を出て右に行き一ツ目のT字路を左折してお茶の水仲通りに入ると右手に、1階に丸善書店が入っている白い瀨川ビルがありますが、通い始めたときには工事中でした。このビルを過ぎると右手に、「山田屋(やまだ)」という25人位入ると満席になる中華料理店がありますが、この店は少しリニューアルして今でも同じように営業をしていて、昼食時には外に人が並んでいることもあります。隣の駿台興業ビルは今でもありますが、地下にあった料金がなくて静かな「談話室滝沢」「咲くら」という居酒屋に変わっています。隣の隣の5階建ての中茂ビルは、入っているお店が全て変わっています。

直進して、学生と教員の朝食の場であり、日本大学歯学部の全ての情報、特に進級者と原級者の情報をいち早く熟知していた親父さんのいる立ち食いそばの「辰巳庵」は、非常に残念なことです。2008年に駿台予備校1号館に取り込まれてしまいました。進んで1階に歯科材料店と「東宝パーラー」、2階に珈琲店の「ディンドン」があった深井産業ビルは、2006年に歯学部4号館となっています。向いの「東京復活大聖堂(ニコライ堂)」とその一帯は、時代が止まっているかのように現存しています。

45年を聖橋口改札から歯学部までの道すがら考えてみましたが、変わっていないのは、丸善書店、山田屋とニコライ堂一帯だけでした。このように考えると、小生自身も変わり、年を取るのも当然という気持ちになってきます。45年間も親不孝を許してくれた親に感謝で稿を終わります。

(教授 歯科補綴学第 講座)

海外派遣研修

米国クレイトン大学歯学部への 留学を振り返って

辻本 暁正

2015年7月から2016年11月まで平成27年度日本大学第1種長期海外派遣研究員として歯科材料の疲労耐久性に関する研究を行うため米国ネブラスカ州オマハにあるクレイトン大学歯学部へ留学し、任期を終えて帰国致しました。クレイトン大学は、1878年に銀行家ジョン・クレイトンにより創設されたイエズス会系私立大学であり、7つの学部と大学院に約8,000人の学生が在籍する米国中西部を代表する名門校です。また、歯学部は1905年に創設され米国屈指の伝統および実績を有し、ネブラスカ州においてはネブラスカ州立大学歯学部と双璧をなす重要な歯科教育機関のひとつとされています。特に、その学生教育は全米においても高く評価されており、毎年1学年の定員85名に対し、約3500～4000人の志願者を有する非常に人気の高い歯学部となっています。

クレイトン大学歯学部で私の所属した研究室は、主に学部長であるMark A. Latta教授および前学部長であるWayne W. Barkmeier教授から構成され、これらの教授の下で自身の研究を進展させるとともに充実した研究生活を送ることができました。近年、本研究室は歯科材料関連の研究を世界的に牽引しており、私もその一翼を担うとともに多くの実験および分析手法を学ぶことができました。これらの経験は私にとって非常に有意義なものであり、自身の研究活動をよりグローバルなものにするものとなりました。今後は、このような研究活動を行うとともに臨床および教育に従事し、日本大学および日本の歯科界の発展に尽力していく所存です。最後に、この度留学の機会を与えてくださった多くの大学関係者および留学を支えてくださった歯科保存学第講座の皆様へ深く感謝致します。（助教 歯科保存学第講座）



佐藤研究費海外研修報告

金子 夏実

平成28年11月12日から25日までの2週間、佐藤研究費海外研修として、オーストラリアのモナシュ大学やニューカッスル大学等、いくつかの教育研究機関を訪問しました。その中でもモナシュ大学は1958年に創立された比較的まだ若い大学ですが、Group of 8といわれるオーストラリア上位8大学で構成される大学連盟の一つとされており、学生数は約7万人、日本大学と同程度の学生数を誇る総合大学です。

同大学には、メインキャンパス内に入学前の留学生の英語力を養成する付属専門学校モナシュカレッジがあり、ここで留学生獲得のノウハウや、留学生の英語力を養成するプログラムについてご紹介いただきました。授業見学をしたクラスでは、13名の学生の内の多くがアジア人の学生で、それぞれ母国語が違う学生同士ですが、慣れない英語でクラスメイト同士コミュニケーションをとる様子が見られました。

また、事務局では、学長事務室のシニアマネージャーであるMichael Friedel氏より、モナシュ大学のグローバル化への取組と展望についてご紹介いただきました。お話の中では、モナシュ大学のダイナミズムという言葉が口にしていらしゃったのが印象的であり、まだ若い大学でありながら、政府研究機関との共同研究棟の新設や、海外にキャンパスを置く研究拠点拡大といった取組を伺い、モナシュ大学の力強い勢いを感じました。

オーストラリアは多民族・多文化国家といわれていますが、実際に街中では様々な人種の人々が行き交い、食文化もアジア料理やインド料理、ギリシャ料理など多岐にわたっていました。研修を通してそうした異国の文化に触れ、その中で過ごすことができたことは、大変貴重な経験となりました。

最後に、研修にあたりご支援いただいた多くの関係者の皆様へ、深く感謝申し上げます。（書記 研究事務課）



桜歯祭を終えて

実行委員長 木村 拓紀

今年度の桜歯祭は10月7日・8日に開催され、多くの方にご来場いただき大盛況で終わることができました。今年度の桜歯祭のサブテーマである「咲き誇れ歯学部生」

に込められた「日本大学のイメージである桜のように歯学部生一人ひとりが桜歯祭の主役として輝こう」という思いの通り、実行委員を始めとして模擬店やカラオケ大会で桜歯祭を盛り上げてくれた各部活動の皆さん、ステージ企画で盛り上げてくれた軽音楽部、奇術部の皆さん、桜歯祭の準備を手伝ってくれた補助委員の皆さん一人ひとりが主役として輝いた桜歯祭になりました。今年の桜歯祭は頼りない実行委員長を支えてくれた幹部を始めとする実行委員の皆さん、並びにお忙しい中ご指導ご鞭撻いただいた先生方並びに職員の方々のおかげで日本大学歯学部創立100周年に相応しい桜歯祭になったと感じております。末筆ではございますが、ご協力いただきました先生方並びに職員の方々に実行委員会を代表して厚く御礼申し上げます。(第4学年)



桜歯祭に参加することにより今まで知らなかった先輩や後輩と仲良くなれるのが実行委員の魅力の一つだと思います。私自身その魅力をより肌で感じた桜歯祭でした。特に今年度は幹部として忙しくも充実した桜歯祭までの日々を送ることができました。来年度も実行委員と共に良い桜歯祭を作り上げていけるよう努力いたします。

副実行委員長 北畠 有希子(第3学年)

今回、3年目の桜歯祭で初の幹部を務めさせていただきましたが、部活の関係上桜歯祭直前まで参加できず、このまま本番を迎えて自分は何ができるのか?と言う不安がありました。そのまま前日準備から3日間校内を駆け回り大変でしたが、「大きく変わる」と書いて大変と書くように、委員のみんなのおかげで少し変われ、来年度に向けて良い糧となりました。来年度は今年度以上に桜歯祭を盛り上げていきたいです。企画統括補佐 西谷 晴彦(第3学年)



NU祭を終えて

実行委員長 井出 翔太

NU祭は、例年同様「いちにち歯医者さん」を開催しました。

初日が天気に恵まれないなどありましたが、学内外問わず多くの方が来場し、今年度も大成功のうち幕を閉じることができました。

また、昨年度よりもスムーズに運営を行い、多くの方にアンケートの記入をしてもらった結果、「歯科をもっと知りたい」「普段できないことができた」等の感想を頂くことができ、目的を果たせていると感じました。その反面、改善点等もあったので、来年度に向けて、より進化したNU祭にしていきたいと思います。

最後に、今年度もNU祭開催にあたりご指導、ご協力いただいた教職員の皆様をはじめ、諸先輩方、実行委員に深く感謝申し上げます。

(第5学年)



今年度の桜歯祭は、総務局長補佐という役職を務めさせて頂きました。最初はこの様な仕事をきちんと果たせるかどうか、とても不安でしたが多くの先輩方、同学、後輩のおかげで楽しく働くことが出来ました。来年度は、より多くの学生に参加してもらうこと、更に、実行委員も楽しめるような桜歯祭を目標にしていきたいと思います。

総務局長補佐 毛取 はるか(第3学年)

今年度初めて桜歯祭実行委員を務めさせていただきました。初めてということもあり、分からない事だらけでしたが、頼りになる先輩方に支えられ桜歯祭を楽しく過ごす事ができました。学校生活で、特に思い出に残る2日間でした。ありがとうございました。

内務局長補佐 田所 桃佳(第3学年)

今年度は外務局補佐という役職のなかでパンフレット作成に携わりました。完成に向けて多くの方と関わらせていただき、ご協力をいただきまして無事に完成できたことを、この場を借りて御礼申し上げます。当日は様々な部署の催しの様子など、全体を見ることができたと思いますので、来年度はより良い桜歯祭となるよう今年度の反省を生かしていきたいと思います。

外務局長補佐 大熊 理沙子(第3学年)

